

第 39 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

岸良 隼人 氏

(筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群障害科学学位プログラム 博士前期課程 2 年次)

テレコム人文学・社会科学学生賞 入賞

「Information and communication technology use by students with disabilities in higher education during the COVID-19 pandemic」

この度は、拙稿を「第 39 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学学生賞 入賞」にご選定いただき、誠にありがとうございます。審査員の先生方、電気通信普及財団の皆さまに深く御礼申し上げますとともに、本研究にご協力くださった皆さまへ改めて深く感謝申し上げます。

受賞論文では、新型コロナウイルス感染拡大下の高等教育機関における大学生の ICT (Information and Communication Technology) 利用に主眼を置いた横断調査の結果について、[disability (障害の有無)] 及び [situation (遠隔授業の 3 類型 + 課題作成・提出場面)] を独立変数として定量的な比較を行ないました。「ICT の利用実態は障害の有無や場面によって異なるか」「ICT に対する抵抗感等の認識は障害の有無や場面によって異なるか」を検討した結果、障害のある学生は、障害のない学生に比べて、多くの場面で ICT 利用をポジティブに認識しました。例外的に、WEB 会議ツールを使用する同期型授業の受講前には、障害のある学生は ICT 利用をネガティブに認識しましたが、受講後には当該認識における障害の有無による差異は見受けられませんでした。

従来、ICT は障害のある学習者が直面する困難さを軽減し得るツールとして注目されています。「障害のある学習者が、どのような場面で、どのような ICT をポジティブ／ネガティブに認識するか」という問いに基づく研究の蓄積は、障害に起因する修学上の困難さを軽減するための効果的な ICT 利用を検討する上で欠かせないものであると考えています。本研究に引き続き、障害のある学生における効果的な ICT 利用について検討を続ける所存です。

改めまして、この度は荣誉ある表彰をいただき、誠にありがとうございました。

末筆ではございますが、貴財団の益々のご発展をお祈り申し上げます。

第 39 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

渡邊 祐作 氏

(神戸大学大学院経営学研究科 博士課程後期課程 1 年)

テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞 「地上波テレビ放送局の番組編成差別化と広告価格に関する実証分析」

この度は、「第 39 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞」を賜り、大変光栄に思います。電気通信普及財団の関係者ならびに審査員の皆様に心より感謝申し上げます。

また、指導教員である中村絵理先生に、この場を借りて深く御礼申し上げます。

多メディア化の時代の只中で、地上波テレビ放送を取り巻く競争環境が劇的に変化を続けていることは言を俟ちません。それでも依然、テレビは最も高い影響力を有するメディアの一つに数えられ、広告産業やコンテンツ産業といった括りの中で大きな割合を占めます。

本研究は、地上波テレビの広告価格に対する番組編成の影響を検討したものです。放送局における番組編成は、視聴者に訴求するためだけのものだけでなく、広告主にCM枠を販売するための製品ラインナップとしての側面を持ちます。本論文では特に、そのラインナップ全体のポジショニングに着目し、番組データを収集することによって差別化の度合いを定量化することを試みました。

受賞の喜びの一方、本研究に取り組んだことで、さらにいくつもの研究課題が浮上り山積しています。微力ながら、一つ一つ向き合って参りたいと思います。また、多くの実証研究の例に漏れず、本研究もデータの収集に苦心を重ねました。人文・社会科学をめぐる各種データのアーカイブ整備が今後ますます進展することを期待しています。

最後に、子供の頃の私にチャンネル選択権を与えてくれ、テレビっ子に育ててくれた家族に感謝を伝えたいと思います。